

平成28年度

事業報告

社会福祉法人愛知育児院

平成 28 年度 事業報告

法人本部

1. 計画の実施状況

法人の方針は、愛知育児院の指標「いのちの輝き」に則り、各施設の日々の業務にその精神が具体的にいかされるよう指導していくことです。そして、施設のご利用者、お年寄りから子どもまでが、毎日を快適に過ごすことが出来るよう、「目配り・気配り・心配り」を職員のモットーとしています。

ほとんどの施設が同じ敷地内にあり、施設移動も建物内でできることを有効に使い、「世代間交流（施設間交流）」を愛知育児院の最大の特徴としています。ホームページなどでその活動を紹介した結果、他施設からの見学や大学のフィールドワーク（現地調査）が行われるようになりました。

また、社会福祉施設として日本有数の歴史を持つことを常に誇りにしています。創立 130 周年を祝い、法人主催で永年勤続者表彰式や職員親睦会などを行い、あらためて歴史を重んじ、仏教精神のもと、社会福祉活動に邁進することを誓い合いました。

平成 28 年度は、国の社会福祉法人制度改革の方針に沿って、新社会福祉法に則り、定款改正を行うことになりました。その結果、理事会・評議員会の位置づけやそれぞれの定数の変更などがなされました。この制度改革の課題はまだ残されていますが、その大部分はスムーズに遂行されました。

(1) 理事会、評議員会

理事会 5 回、評議員会は 4 回催しました。議題は、5 月は事業報告・決算報告、9 月は第 1 次資金収支補正予算案及び児童養護施設南山寮の「地域小規模児童養護施設」設立案、12 月は社会福祉法人制度改革に伴う定款改正案、平成 29 年 2 月は評議員候補者の選任案、3 月は補正予算案及び次年度の事業計画、資金収支予算案を審議・承認していただきました。

(2) 規程の整備

平成 28 年度は、「職員給与規程」に始まり、児童養護施設南山寮と南山ルンビニー園の「施設運営規程」、「育児・介護休業規程」、「経理規程」、「役員等報酬規程」が改正され、また、「定款細則」「監事監査実施規程」が制定されました。

(3) 経理など

南山の郷、南山ルンビニー園、南山寮の建物は築 18 年を経過し修理、修繕する箇所が多くなり、各施設ともそのための予算だてが目立つようになりました。その中でも、大きな課題であった空調設備の整備は無事終了しました。

現在の主な建物建築の借入金返済は、あとわずか（約 1 年半）になり、それが

完済すれば財政的に多少の余裕ができることとなります。

(4) 広報活動及び地域に向けた公益的取組み

この度の社会福祉法人制度改革の柱の一つは、事業運営の透明性の向上です。愛知育児院では、各施設の事業計画、資金収支予算案、事業報告、決算報告などをすでにホームページに載せています。定款、現況報告などもホームページに載せ、事業運営の透明性を達成しています。また、愛知育児院広報誌「南山の森」をはじめ、各施設で日常的な様子を伝えるための広報誌も発行しています。

制度改革の一つである「地域に向けた公益的取組み」においても、積極的に取り組んできました。その主たるものは、「福祉避難所の運営」「災害時地下水の給水事業」「子育て支援事業」「地域認知症サポーター養成講座」などです。

2. 主な事業

<会議など>

法人運営会議、法人連絡協議会、税理士経理点検（月1回）、苦情解決委員会
広報誌「南山の森」編集委員会、世代間交流会議、防火・防災会議

<年間の主な事業>

4月	辞令交付	5月	監事監査、理事会		
6月	定時評議員会（決算報告など） 理事会、法務局資産登記、ふれあいまつり				
7月	理事会、苦情解決委員会	8月	盂蘭盆会（うらぼんえ）		
10月	理事会	12月	報恩講	1月	理事会、苦情解決委員会
3月	理事会・評議員会（事業計画、予算案など）				

3. まとめと今後の課題

社会福祉法人制度改革に応じて、具体的な変更は順次順調に進んでいますが、今年度に残された課題を計画通り遂行していくことが課題の一つです。それは、社会福祉充実残額の明確化と地域に向けた公益的取組みを広げていくことです。また、経営組織の再編成により、理事会、評議員会の役割が大きく変わり、議決機関としての評議員会、執行機関としての理事会がそれぞれ円滑に、また効果的に機能していくようにしていきます。たとえば、社会のニーズに応えることができる新規事業が施設から提案された場合、法人、理事会で検討し、評議員会で審議していただくこととなります。

日本の社会福祉の歴史を研究する上で、愛知育児院に保管されている明治時代からの資料は大変貴重なものです。愛知育児院創立130周年記念事業としてそれをマイクロフィルム化していますが、経費の関係でその作業は道半ばです。この作業を完成まで継続します。

平成28年度 事業報告

児童養護施設 南山寮

1. 計画の実施状況

(1) 地域小規模児童養護施設「みなみ」の開設および小規模グループケアユニットの増設
かねてより懸案となっていた地域小規模児童養護施設の開設に向け、子どもがより良く育つのに適当な物件を賃貸契約することができ、6名の児童が「みなみ」での生活をスタートさせました。また、南山寮にて3か所目の小規模グループケアユニットが承認され、南山寮の定員を55名から50名に変更しました。

「みなみ」の開設に際して、公益財団法人SBI子ども希望財団様より285万円の助成金受配が認められ、家具・家電等の物品購入費に充てることができました。

(2) 子どもの権利擁護と性教育についての取り組み

平成29年の第三者評価受審に向けた自己評価の実施や人権擁護のためのチェックリストの活用に取り組み、また、平成28年度も年間を通じて小グループごとの性教育実践に力を入れました。年度末には、南山寮独自の子どもの権利擁護研修、また、外部講師を招聘し、対応困難ケースに関するスーパーバイズ型の研修を企画実施しました。

(3) 地域社会や関係機関とのネットワーク強化

南山寮の子どもたちを支援してくださる人的ネットワークの広がりにより、空中ブランコ体験やダブルダッチ体験をさせていただく機会に恵まれました。また、ボランティアの方によるピアノ教室やフットサル教室も定期的に行われています。ダンスチーム、バンドチーム、アフリカ太鼓チームも、ふれあいまつりやKIPイベントでのステージで、子どもたちが日頃の練習の成果を披露することができ、自己肯定感を高めるチャンスとなりました。

(4) 施設内設備の整備に向けて

全館の照明LED化工事を実施しました。建築より19年が経過し、厨房の冷蔵庫入替、ウッドデッキ塗装、非常灯予備電池交換等、経年劣化による施設設備・機器の故障が頻発し、特に、建物北側部分の埋設排水管改修工事には100万円もの修繕費が掛かりました。

なお、CBCチャリティ募金受配により、多目的室の本棚を新調することができました。

2. 入所児童数と職員数

・入所児童定員数 56名 (南山寮50名 みなみ6名)

【月別入所児童数】

(※ ショートステイ・一時保護は月間の延べ人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
幼児	12	12	12	12	12	13	13	12	12	12	12	12
小学生	22	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
中学生	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12
高校生	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
その他												
合計	53	53	54	54	54	55	55	54	55	55	55	55
ショートステイ												
一時保護			18	25	7	25	15	20	8	4	56	55

3. 主な事業

(1) 会議及び行事

<月会議>

職員会議・リーダー会議・各フロア会議・給食担当者会議・給食審議会・進路指導会議(年1～2回)・予算検討会議(年1～2回)・セラピストとの懇談会(年2回)・児童相談所職員との懇談会(年1回)・防災会議(隔月)・小規模化プロジェクト会議

<月行事> 誕生会・避難訓練・夕食会

<名古屋市児童養護連絡協議会の行事>

海の家(篠島)・福祉絵画展・自立支援研修・スポーツ大会(ソフトボール・野球)・児童福祉施設運動会・退所児童社会自立宿泊研修・フットサル大会

(2) 月別行事实績

4月 入学式・入園式・学級懇談会・授業参観・餃子慰問・野球招待・サッカー招待

5月 親子遠足(幼)・運動会(小)・保育参観(幼)・野球招待・ケア交流行事
ウォーカーソンイベント・幼児遠足・わんぱく相撲・潮干狩り招待・自立支援研修

6月 ふれあいまつり・みなみやま交流行事・野球招待・子ども会ドッジボール大会
授業参観・学級懇談会

7月 自立支援研修・七夕会(幼)・自立支援研修・名養連海の家・ハンバーガー慰問
山のくらし・バーベキュー招待・フットサル招待・幼児海水浴

8月 山のくらし・連合運動会・喫茶クラブ・みなみやま交流・名養連スポーツ大会・
子どもサロン(プール)・リサイクル講演招待・車椅子教室・盂蘭盆会・ケア交流・

- 法人総合防災訓練・絵画展表彰式・空中ブランコ体験招待・ダブルダッチ体験・園、デイ、特養の夏祭り・金光教レディースフォーラム・野球招待
- 9月 自立支援研修・連合音楽会・子ども会ソフトボール大会・栄ロータリークラブ招待・J Cキャンプ・体育大会（中）・授業参観・子ども会里山体験
- 10月 運動会（幼）・修学旅行（小）・八事学区歩こう会・U S J 招待・みなみやま交流・南山寮秋フェス
- 11月 オレンジリボンたすきリレー・チャリティマラソン招待・芋掘り招待・釣り大会・子ども会ドッジボール大会・七五三招待・幼稚園父兄参観日・音楽会（中）・作品展（小）・フットサル大会・K I P 招待
- 12月 中部楽器専門学校演奏会・S F N クリスマス慰問・善意銀行サンタ慰問・東別院子ども報恩講・シルクドソレイユ招待・三世代餅つき・M D R T ビンゴ大会・フットサル大会・ミュージカル招待・施設交流バドミントン・もちつき・大掃除・年越会
- 1月 新年の集い・初詣・喫茶クラブ（初釜）・キッズ雪遊び・塩竈会招待・山の家
- 2月 授業参観・学級懇談会・幼稚園お遊戯会・子ども会お別れ会・旅立ちセミナー・タキヒヨーイベント招待・幼稚園お別れ会・卒寮生を送る会
- 3月 子ども会お楽しみ会・伊勢志摩一泊旅行・テーブルマナー教室・サッカー招待・卒業式（小中高）・卒園式・ボウリング招待・レゴランド招待・法人総合防災訓練施設交流バドミントン

（3）実施・導入および改訂事項

- ① 地域小規模児童養護施設の開設準備と小規模グループケアユニットの増設
 - ・開設に向け、他施設の見学研修を含めた具体的な検討会議の継続（年間）
 - ・地域小規模児童養護施設として昭和区長戸町の戸建て住宅を賃貸契約（3月）
 - ・2 F ユニット（コスモ）を小規模グループケアユニット化
- ② 入所児童の権利擁護と健全なる育ちに鑑み、学齢別・性別の小グループを対象とした性教育や外部講師を招聘しての施設内研修を実施
 - ・子どもの権利擁護研修（2月）
 - ・ケースカンファレンス（3月）
- ③ 権利擁護に向けた取り組み
 - ・第三者評価自己評価実施（6月）
 - ・人権擁護チェックリストの活用（2月）
- ④ 工事・物品購入等
 - ・L E D 照明工事（4月）
 - ・厨房冷蔵庫入替（7月）
 - ・畳表替え（8月）
 - ・ウッドデッキ塗装（8月）
 - ・排水埋設配管改修工事（10月）
 - ・非常灯予備電池交換工事（10月）
 - ・排水管洗浄（12月）
 - ・多目的室本棚改修工事（1月）
 - ・ユニット玄関改修工事（3月）
 - ・地域小規模施設用物品購入（3月）

4. まとめ

平成28年の改正児童福祉法により、児童の権利に関する条約批准22年目にして初めて

日本の法律に「児童の権利に関する条約」「最善の利益」という文言が入りました。しかしながら、児童虐待件数は増加の一途を辿り、名古屋市においては一時保護所に収容できない児童を、定員外委託一時保護という形で施設が収容せざるを得ないという事態がここ数年続いています。南山寮は、地域小規模児童養護施設みなみの開設、3か所目の小規模グループケアユニット化を実現し、限りなく家庭に近い環境の提供に向け、新たな一歩を踏み出しました。私たち職員は、児童一人ひとりの権利擁護、最善の利益を第一義とし、様々な人的資源や社会資源を積極的に活用することで、自立に向けた様々な気づきの機会、学びの機会、育ちの機会の提供ができる様、最大限の努力をしていきます。

平成28年度 事業報告

南山ルンビニー園

1、 計画の実施状況

(1) 子どもの発達過程と保育の視点を明確にしながらかリキュラムを設定することにおいて

○0歳児の保育では、保育士との愛着関係をしっかりと作りながら清潔で安全な快適な保育環境のもと、心身の発達状況や生活リズムを把握して一人ひとりに対応しました。成長の様子を保護者に伝え、安心して一緒に子育てを楽しめるように配慮しました。

○1歳児の保育では、言葉の発達が気になる子が多くみられたので、グループ保育を通してその発達を促していけるようにしました。絵本や紙芝居だけでなく普段の遊びや生活の中で、友だちや保育者とのかかわり図を作成し、活用しながら一人ひとりの発達を理解していくようにしました。それによって言葉の発達だけでなく一人ひとりの育ちや課題もよく理解でき、丁寧なかかわりを持つことができました。

○2歳児の保育では、一人ひとりの個性や要求が強い子が多かったので、個々の気持ちを受け止め、一日をスムーズに過ごせるように心がけました。落ち着いて過ごせるように少人数での活動を多く取り入れました。また、コーナー遊びを設定し、友だちの繋がりを深めるようにしました。集団での活動になかなかつながらない事もありましたが、無理をせず楽しめるようにすることで、少しずつ落ち着いて過ごす時間が増えてきました。

○幼児の保育では、長時間保育の園児が増えているので、教育時間外での活動はのんびりした雰囲気の中で友だちと生活が楽しめるように配慮しました。

○早朝保育・延長保育の時間帯で計画的に異年齢がかかわれるように配慮したことにより、普段の生活の中でも自然にかかわる姿が多くなりました。兄弟姉妹で過ごす時間も増え、情緒的な落ち着きがみられました。

○障がい児保育については一人ひとりの発達状況を理解し、適切な援助ができるよう臨床心理の先生をスーパーバイザーとして迎え、ケース検討会の充実を図りました。子どもだけの問題ではなく家族との関係性も含めた細やかな対応について検討ができ、適切な発達援助へつなぐことができました。

(2) 日々の生活の中で「考える力」を育む活動や環境設定をし、教育の基本となる「学びの心」を育てることにおいて

- 幼児の教育において、各年齢の特徴を捉え「遊びから学びへ」を主題とした取り組みをしました。子ども達の「気づき」から「考える」へ発展できるようなカリキュラム設定に努め、子ども同士が主体的に関わりながら、個性を認め合って活動することの楽しさが経験でき、共通の目的意識を持って取り組むことができました。
- 各年齢で小グループ制の活動を計画的に設定したことにより、一つのことじっくりと取り組むことができました。少人数にしたことにより担当が深くかかわることができ、一人ひとりの課題へ働きかけることができました。
- 生活の中で「考える」ことに重点をおき、保育教諭が助言や援助することにより考えたことを「試す」ことが増えました。一人の考えからグループでの考えに発展し「協働」の姿がみられるようになりました。

(3) 多様化する保護者の就労状況やニーズに配慮し、子育てと仕事の両立がスムーズにできるように、また、子育てが楽しくできるように支援することにおいて

- 全体の約30%の園児が11時間以上の保育時間を必要としています。一日のほとんどを園で過ごしているので、園での様子をクラス担当以外の職員からも伝え、伝言を受け取ることもできるような体制を整え、保護者とのコミュニケーションを充実させていきました。
- 保護者以外の送迎も増えているのが現状です。祖父母だけではなく、様々なサポート事業を利用している家庭も多くあります。サポート業者を利用する場合は事前に顔合わせをするなど園児の安全を重視しました。
- こどもの心身の発達を保護者と共に喜びあえるような情報の発信に努めました。クラス日より（月1回）に加え、その日の保育のエピソードを紹介する「号外」や写真の掲示により、園での生活の様子がみえるように工夫をしました。
- 年に2回、保護者よりアンケートを取りました。その結果を受けてクラス懇談の日程や職員同士の連携について改善をしました。また行事や保育内容などについては概ね良い評価を頂いたので、一層充実させていくことを紙面でお知らせしました。

(4) 在園児、未就園児を問わず地域の子育て支援をすることにおいて

- クラス懇談、個人懇談の開催、育児相談を随時受け付けました。
子育てに不安を抱えている保護者の気持ちに寄り添うことができました。
- 地域子育て支援（ルンビニーひろば）…未就園児親子対象
月に2回、子育て講座、手作りおやつ、運動あそびなどを行いました。
「わいわいひろば」は南山寮の地域交流スペースを使用してもらい、楽しい

情報交換の場を提供することができました。

園庭開放は曜日・時間等定着したため、お友達と誘いあって遊びにくれる方が増えました。

○見学会には参加人数も多くルンビニーへの入園だけでなく、保育園への入所システムについても質問が多くありました。また電話にて随時育児相談、発達相談がありました。

○「ルンビニー文庫」は評判もよく、「ひろば」に参加された方のほとんどが利用しています。

○援助の必要な家庭に対し、行政機関と連携をとり適切な支援ができるよう努めました。今年度は糖尿Ⅰ型の子の受け入れをし、看護師を中心に、安心して園生活を送れるように支援しました。また、その子だけでなく母親をはじめ家族全体を受けとめ、安定した子育てができるように支援しました。

(5) 世代間交流を特色とした幅広い保育の実践において

○昨年同様、お互いに負担にならない交流を心がけ、年長児を少人数グループに分け実践しました。年中クラスと「みなみやま」とは誕生会を中心に行事ごとの交流も定着し、誕生会には子どもたちも自分が行く日を楽しみにして待つ姿がみられました。

南山の郷との毎月の交流も年長児を2グループに分け、1F・2Fとフロアごとにしたことにより、より親しみをもち楽しく落ち着いて交流出来ました。

○デイサービスとの交流は、通常保育の園児だけではなく、休日保育の園児も誕生会に参加し、幅を広げることができました。

(6) 保育力を高めることについて

○育ちの連続性を踏まえたカリキュラム構成や環境設定を連携して行うことにより、0歳～就学前までの発達の理解が深まりました。

○援助の必要な家庭や発達につまづきが多い園児の対応などに園全体で取り組むことにより、職員間の連携が深まったとともに一人ひとりの状況を的確に把握し、総合的に考える力がついてきました。

○年間を通じて統合保育研究「集団の育ちについて」の外部研修に参加したことにより、あらためてクラス活動の見直しやグループ保育などに取り組みました。そこで集団の中における気になる子の育ちを理解することが園全体ででき、保育力を高める結果となりました。また、各クラスで課題を決め1年を通してその課題についての様々な取り組みを保育の中で行いました。子どもたちの理解や発達の援助、クラス保育の見直しに繋ぐことができました。

2、利用実績(月初)

クラス 月	たんぽぽ 0歳児	チューリップ° 1歳児	マーガレット 2歳児	ひまわり 3歳児	さくら 4歳児	ゆり 5歳児	合計
4月	13	22	24	25	24	25	133
5月	13	22	24	25	24	25	133
6月	15	22	25	25	24	25	136
7月	16	22	25	25	24	25	137
8月	17	22	24	25	24	25	137
9月	17	22	24	25	24	25	137
10月	18	22	23	25	23	25	136
11月	18	22	23	25	23	25	136
12月	18	23	23	25	23	25	137
1月	17	23	23	25	23	25	136
2月	17	23	23	25	23	25	136
3月	17	23	23	25	23	25	136
計	196	268	284	300	282	300	1630

3、主な事業

(1) 保育事業

- 産休育休明け入所予約・・・年間6人枠。
- 障がい児保育・・・・・・・・・・中度1名、軽度3名が入所しています。
- 休日保育・・・・・・・・・・定員<日曜10名・祝日15名>
- 特別教室・・・・・・・・・・たいそう教室・英語であそぼう(3歳以上)
音楽教室・お茶教室・そろばん教室(5歳児クラス)

(2) 交流事業

- 南山の郷・みなみやまとの定期的な交流
- 年長児の祖父母との交流
- ・敬老のお祝い会にご招待して、楽しく過ごしていただきました。

(3) 子育て支援事業

- ルンビニーひろば(月2回育児相談・講演会・遊びの提供・手作りおやつなど)
- わいわいひろば(月1回 育児の情報交換の場を提供)
- 園庭開放(毎週水曜日10時30分~12時)
- 電話育児相談随時
- 園見学と入所システムの説明

4、その他

(1) 行事

- 4月 入園進級式・お花見散歩・花まつり
 - 5月 こどもの日のつどい・親子遠足・クラス懇談会
 - 6月 歯科検診・歯みがき指導・プラネタリウム見学（年長）
 - 7月 たなばた会・なつまつり・プール開き・お泊り保育(年長)
 - 8月 カレークッキング
 - 9月 防災訓練・敬老の日の集い・園児健康診断
 - 10月 運動会・秋の遠足
 - 11月 人形劇観賞・七五三のお祝い会・保育参加（2歳児以上）
 - 12月 報恩講(年長・東別院)・クリスマスお楽しみ会・年忘れ会
 - 1月 初詣・餅つき・クラス懇談会
 - 2月 豆まき・ひなまつり会
 - 3月 お別れ遠足(年長)・お別れ会・園児健康診断・卒園式
- 保健衛生 身体測定（毎月）・避難訓練（毎月）
職員健康診断（年1回）・職員検便（年2回）

(7) 職員会議および研修

会議；職員会議・リーダー会議・クラスケース会議・給食会議
行事企画会議

研修；名古屋市子ども青少年局・全国私立保連園連盟・名古屋民間保育園連盟
名私保育士会・名古屋保育士会・昭和区保育協会・昭和区保育者の会
その他保育研究団体主催の研修会に参加。

園内研修・・・*ケース検討会（年4回）

- *各クラスで研究課題を決め、年間を通して取り組み
保育実践記録として園内で発表
- *「集団の育ちについて」（通年）

5、まとめ

「幼保連携型認定こども園」として2年が経ちました。今までの「保育（養護）」の形を継承しながら「教育」に繋げることに重点を置きました。今までの保育実践の中での「教育」を見直し、「教育」の部分を明確にしたカリキュラム設定をすることにより、保育者自身も発達と教育の連動性に気付き、計画的に取り組むことができるようになってきました。まだまだ足りないところもありますが、園内研修等を充実させよりよい発達支援と教育ができるように励んでいきます。

今年度は保健所・区の民生子ども係・児童相談所からの要請を受けての入所が3件ありま

した。子どもが抱えている問題だけではなく、家族が抱える問題にどのように対処していくのか考える機会が多くありました。保育者は保護者を受け止め対応していく力が求められます。保育者一人ひとりの人間性を高めることの大切さを実感しました。子育て支援とは子どもの発達だけではなく保護者への支援も必要です。家庭の安定なくして育ちの安定はありません。「保育力」だけではなく「人間力」の向上を目指した職員集団でありたいと思っています。

いろいろと問題が多い子育て支援業界です。常に「子どもを主体」とした「保育」「教育」を心がけ、保護者の方には安心して利用していただける園、行政からみても健全な運営をしている園であるよう努力していきます。

平成 28 年度 事業報告

特別養護老人ホーム 南山の郷

1. 計画の実施状況

(1) 「権利擁護」の認識と、尊厳あるサービスの向上

本人の生き方を尊重し、その人らしい暮らしを実現するケアができるよう、ミーティングや会議で多職種と情報共有を図り、担当職員を中心にその人の思いや状態に合わせた個別ケアの推進に努めました。看取り期においても本人の思いや家族等の意向を確認し、職員も思いを共有しながら最期までその人らしさを尊重できるケアの実践に努めました。

また、不適切ケアの防止として、日々の小さな気づきや疑問を記録していくことで、皆で不適切なケアを生み出す背景の理解と対応を検討できるしくみをつくり、未然に防止する取り組みを始めました。

(2) ケアの再構築とケアマネジメントの充実

ご利用者やご家族がサービス担当者会議に参加して頂く体制をとり、ニーズの把握やサービス提供のあり方を検討してきました。日常では各種会議の中で個別の課題について職種間で連携し問題を解決する体制が定着しました。ご利用者の担当職員が中心となって個別の課題や希望を把握し、プランと実践に繋がりのある個別ケアに取り組みました。その他、ご利用者の体調変化や受診時のご家族へのわかりやすい説明、医療機関への情報提供の工夫に努めました。その為にも、ご家族と普段からの信頼関係づくりに努めました。

ご利用者の状態変化や重度化への対応については、訪問看護ステーションとの委託契約によりスポット業務を分担し、施設の看護・介護職員の負担軽減も図りながらより個別な対応ができる体制としました。また、安全で安心できるケアの対応として、様々なタイプの車椅子の選定やバッテリー型吸引機など、ご利用者の状態や目的に合った福祉機器や介護用品の導入をしました。

食事については、栄養プランの作成、食事内容や提供方法の改善課題の検討および実施、食事形態の見直しやソフト食の工夫を継続しています。常食化の取組みとして、厨房に真空調理機を導入し、栄養面でもメリットの高い軟菜食の提供の検討を進めています。嚥下状態や咀嚼の良くないご利用者も、できるだけ口から食べ続けられるよう、サービス間の食事形態の統一化、食事の介助方法・姿勢保持の見直しなど、言語聴覚士、栄養士を中心に個別の対応を継続しています。また、歯科医や歯科衛生士と連携し嚥下評価を実施するなど、食事摂取について多角的に取り組んでいます。

(3) 職員の専門性の向上、資質の向上

各部署の役職者による全職員の面談を実施し、職員の課題整理と目標を明確にしモチベーションと資質の向上を図りました。

施設内研修は年間計画により介護基礎研修を実施しました。今年度は「看取り」をテーマにそれぞれの職種が考えることを意識した研修内容としました。嘱託医、協力医療機関にも講師として参加頂き、ご利用者、ご家族、関連事業所の方にも参加して頂きました。

(4) 生活環境・生活空間の改善

平成 29 年度の準個室化に向けて助成金申請の手続きを行いました。今後、来年度の実施に向けて具体的に実施計画を進めていきます。1 階西側食堂のレイアウト変更と安全な床材への改修工事については、準個室化の工事とスケジュール合わせて来年度に実施します。他、機器の老朽化に伴い全館のナースコールと消防設備の非常用バッテリーを更新し、安心できる生活環境整備を行いました。

(5) 適切で統一した組織運営づくり

サービス・運営の適切な評価と実施について予定した内部監査の実施に至らなかったため、来年度取り組みます。

(6) 経営の安定、安定したサービス提供

ご利用者の日々の健康管理により、感染症の蔓延によるサービス提供の中止や、長期入院による空床の防止、退所後の空床期間が長くない工夫などを行い収入の安定化を心がけ、ご利用者に必要なサービスが安定して提供できるよう取り組みました。また、サービス提供にかかわる適用基準については、要件や体制確認を行ない法令を遵守する運営を行いました。

(7) 施設の垣根を越えたサービス提供

併設施設の特徴を生かし、他のサービスご利用者との交流ができるよう取り組みを進めたことで、特養のご利用者がデイサービスに遊びに行くことや、ケアハウス、みなみやまのご利用者との交流する機会が増えました。

(8) 地域ニーズを掘り起こし、特養が持っている知識や技術の地域還元 体制が整わず実施に至らなかったため、来年度取り組んでいきます。

(9) 外部ボランティアの積極的な活用と受入れ体制の整備

これまでボランティアの活用が難しいとされていた認知症の方についても、サービス担当者会議で検討しケアプランに盛り込むことで、個別に対応して頂けるボランティアの受入れができました。今後もボランティアの受入れと活用の工夫に努めていきます。

2. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
特養	78.8	78.4	78.3	79.5	79.9	77.1	78.6	78.3	78.9	79.3	78.5	77.1	78.6(98.2%)
短期	22.0	22.1	22.3	21.4	20.6	22.3	21.4	20.6	22.1	21.8	21.9	21.9	21.7(108.5%)

※定員：特別養護老人ホーム（80名）短期入所（20名）

※特別養護老人ホーム・短期入所：1日あたりの利用人数

※平成28年度平均要介護度

介護老人福祉施設	4.1
短期入所生活介護	3.2

3. 主な事業

(月行事)

会 議：職員会議、経営会議、連絡調整会議、リーダー会議、グループ会議、厨房会議、看護職員会議、事務所会議、サービス担当者会議、委員会連絡会議、入退所検討会議

委員会：非常災害対策委員会、個人情報保護委員会、衛生委員会、事故防止検討委員会、サービス向上・業務改善委員会、感染症・食中毒予防対策委員会、食事委員会、身体拘束解消委員会、褥瘡予防対策委員会、研修委員会、実習委員会

行 事：お誕生日、お楽しみ会、日曜レク、音楽クラブ、売店、移動パン屋、理美容、体重測定、喫茶（南山寮生）、生け花、衣類販売、真宗大谷派東別院巡回法話、老いと病の相談員による傾聴ボランティア、大谷高校ボランティア、有志による傾聴ボランティア、音楽（みなみやま聖歌隊様）

(年間行事)

- 4 月 お花見
- 5 月 菖蒲湯
- 6 月 ふれあいまつり、緊急時対応模擬訓練①、害虫駆除、全館定期清掃
- 7 月 七夕、花火大会、普通救命講習
- 8 月 盆踊り、盂蘭盆会、総合防災訓練
- 9 月 名古屋市情報伝達訓練、消防設備点検、全館清掃（床・窓）、職員健康診断、介護技術研修①
- 10月 名古屋市老人ホーム運動会、わんニャン広場、施設内運動会、介護技術研修②
- 11月 名古屋市老人ホーム作品展、インフルエンザ予防接種
- 12月 報恩講、餅つき、大掃除、年忘れ会、生け花（正月花）、介護技術研修③、害虫駆除
- 1 月 初釜、初詣、介護技術研修④

2 月 介護技術研修⑤

3 月 職員健康診断、総合防災訓練、全館清掃（床）、介護技術研修⑥、消防設備点検

4. まとめ

介護の重度化と医療依存度の上昇に対応していける体制づくりと、職員の資質向上に取り組みました。これからの対応には多職種での連携がこれまで以上に必要となりますが、ミーティングや会議の場でケアの見直しや連携方法を検討し続けてきたことで、チームとしての繋がりができてきました。ご利用者を良く知ることを基本に、各職種が専門性を発揮しながら連携し、根拠のある介護と個別ケアの実践にチームとしての取り組みを継続していきます。

平成 28 年度 事業報告

南山の郷 デイサービスセンター

1. 計画の実施状況

(1) 地域連携の拠点

- 体調不良などで当日お休みされたご利用者（独居者）を訪問し、体調の管理などを実施。その他、サービス提供中の急な受診など必要なサービスの調整を行いました。
次年度は、必要にご利用者には、夕食の配食サービスが提供できるよう環境整備にあたります。
- 名古屋市や昭和区などの各種専門的な分野に社会資源として職員を派遣してきました。今後も、施設外での活動を推進し、事業所の取り組みを広く地域の方々にも伝えていきます。
- 平成 28 年度内にて定期的なサロンの実施は出来ませんでした。次年度での開催に向け準備を進めます。

(2) ケアカンファレンスの開催

- 毎月ケアカンファレンスを開催し、ご利用者やご家族の新たなニーズを探り、在宅で自立した生活が継続できるよう支援を行いました。
- 今後も日々の支援の中で、生活相談員や機能訓練指導員を中心として、ケアに関する積極的な提案を続けていきます。
- 職員同士でも朝礼や終礼を活用し、ご利用者への処遇やケア方法を検討し実施・評価を行い、より良い支援を目指してきました。
- デイ独自のミニ学習会を実施し、職員同士で意見交換などを行う場を創設しました。
- 法人内他事業所との連携により、同じご利用者が統一された介護計画に基づき支援が行えるよう、必要に応じて調整を実施しました。

(3) 環境整備の推進・整理整頓

- 衛生委員会や食事委員会などで定期的な環境整備の評価を実施、その評価をもとに現場にて都度改善を行い、ご利用者や職員が安全に気持ちよく過ごせるよう努めました。
職員にとっては職場であっても、ご利用者には生活の場であることを常に忘れず今後も利用いただく全ての方が気持ちよく過ごせるよう、環境整備や整理整頓を推進していきます。

(4) 社会資源の活用

- 限られた職員数のなかでは、ご利用者の個々のニーズを引き出す事はできても、

それを実現することがなかなか容易ではないため、地域の社会資源として様々なボランティアの方々にご協力をお願いしています。

ゆっくりと寄り添って話を聞いて下さる「傾聴ボラ」(昭和区社会福祉協議会)、個々の趣味に基づいた「法話」「詩吟」「メイクセラピー」「理美容」や年に一度しめ縄を利用者と一緒に制作下さる「天白川で楽しみ隊」、毎月のご利用者の誕生会で生花を準備下さる「花たち」等、日ごろから当センターの運営方針を理解していただいたうえで沢山の力をお借りしています。

ボランティアの方々にも、気持ちよくデイサービスへお越しいただけるよう、ご利用者との橋渡しや、具体的なお願い、感謝の気持ちを言葉に出すよう心掛けました。

(5) 非常災害時の対策

非常災害対策委員会を主とし、非常災害時のご利用者の安否確認の方法や送迎時などの支援の在り方を、この2年をかけて整備しています。また、年2回の避難訓練では、職員それぞれが動線や動き方を確認しながら、また、他部署とのコミュニケーションを意識しながら参加してきました。今後も学習会などを開催し、デイサービス独自の緊急時訓練などを企画・実施しました。

(6) 事業の安定した運営

ご家族や介護支援専門員からの相談に対し実際どのような支援が出来るのかを一緒に検討し、個別的な対応を心掛けました。また、年間を通じて利用予定人数と実利用人数を毎日記録化し、臨時利用の可否などがどの職員でもすぐに対応できる体制づくり、日々変動する空き曜日の情報共有を図り、問い合わせに迅速に対応し新規利用者契約につないでいきました。新規利用者の体験レポートは、実際の様子を写真入りで作成し好評を得ています。

認知症や医療依存度の高いご利用者の受け入れも随時行い、職員の専門性を高めることに努めました。受け入れ直後は大変ですが、在宅で介護されているご家族のよき支えとなれるサービスであることを職員会議の場などでも伝えていきます。その結果、ユーザー評価においても、ご利用者やご家族が事業所に求めるサービス評価で上位にあります。また、認知症ケアの充実を図るため、新たに名古屋市が主催する認知症実践者研修を2名の職員が受講しました。

2. 利用実績 (月あたりの利用人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
26.1	27.3	28.7	28.7	27.3	27.4	27.2	26.8	26.2	25.8	26.4	26.0	27.0

(平均稼働率：79.4%)

*定員：通所介護 (34名)

*平均介護度：2.55

3. 主な事業

(月行事)

会 議：全体職員会議・経営会議・職員会議・委員会連絡会議

ケアカンファレンス

委員会：非常災害対策委員会・個人情報保護委員会・衛生委員会・事故防止検討委員会・身体拘束解消委員会・サービス向上業務改善委員会
感染症食中毒予防対策委員会・食事委員会・褥瘡予防対策委員会・
研修委員会・実習委員会

行 事：ルンビニー園交流（全体・小集団）・ルンビニー園合同誕生日会・
世代間交流（寮喫茶）・グループホーム交流（音楽療法）
外出行事（買い物・喫茶・興正寺・東山公園・動物愛護センター等）
食事会・おやつ作り・作品作り・メイクセラピー・理美容・詩吟・
法話・伊勢型紙・カラオケ
各種演奏会（オカリナ・エレクトーン・琴・ハーモニカ・三味線等）

(年間行事)

- | | |
|------|------------------------------------|
| 4 月 | 花見外出・花まつり |
| 5 月 | 菖蒲湯・節句 |
| 6 月 | ふれあいまつり |
| 7 月 | 七夕会・盆踊り |
| 8 月 | 夏まつり・総合防災訓練 |
| 9 月 | 敬老会 |
| 10 月 | 運動会・体力想定・秋刀魚 |
| 12 月 | ボランティア慰労会・クリスマス会・餅つき・しめ縄づくり
柚子湯 |
| 1 月 | 初釜・ボランティア慰労会 |
| 2 月 | 節分 |
| 3 月 | ひなまつり・ルンビニー園卒園祝い・総合防災訓練 |

4. まとめ

今後も認知症や医療依存度の高い高齢者が、地域とともに暮らしていくためには、何が必要かを常に考えながら、体制を整えるだけではなく、ご利用者やご家族を支える私たちも広い視野で物事をとらえ、より専門的な知識の習得を図り安心して利用していただける施設作りを目指します。

また、ここ数年の家庭環境などをふまえ、日ごろからご利用者やご家族と積極的な交流を

図り、信頼関係を築いていく事が大切であることを、職員それぞれがより一層意識し、それを体現していきます。

専門的な認知症ケアの必要性も近年高まりつつあります。認知症ケアに特化した施設の整備も含め、総合的に在宅生活を支える体制を整えていきます。

平成 28 年度 事業報告

南山の郷 居宅介護支援事業所

1. 計画の実施状況

(1) 「本人らしい生活」の支援

できる限り住み慣れた地域で暮らし続けたい、施設ではなく自宅で暮らしたいといった思いを汲み取り、生活に反映させることができるよう、自立支援の視点に立ったケアプランの立案を心掛けました。

(2) 各機関との連携強化

行政機関、いきいき支援センター、関係事業所、医療機関等に電話・訪問等の手段を用いて積極的にアプローチを図り、連携強化に努めました。特に、いきいき支援センターには困難ケースや虐待ケースの相談や報告を密に行っており、情報の共有と適切なサービス提供に努めました。

(3) 研修への参加、職員の資質向上

月 1 回ほど内部研修に参加し、新たな知識の習得や相談援助技術の向上に努めました。また、外部研修にも積極的に参加し、より広い視野に立った情報収集と資質の向上に努めました。

2. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
登録者数	93.0	93.0	90.0	92.0	94.5	95.0	101.5	100.0	99.0	98.0	97.5	98.0	96.0
実績	90.5	86.5	88.5	88.0	89.5	93.0	92.5	98.0	97.0	92.5	93.5	94.0	92.0

※ 予防給付は介護給付の 0.5 換算。

※ 入院中などでサービス休止中の方は実績から除外。

3. まとめ

近年、困難ケースや虐待ケースが増えつつあるため、そういったケースにも適切に対応できるよう、今後も定期的に居宅介護支援に関する知識・技術を習得する機会を持ち、資質の向上に努めていきます。またチームとして問題の解決に取り組むことができるよう、関係各所および民生委員との関係強化に努めていきます。

平成 28 年度 事業報告

ケアハウス 南山の郷

1. 計画の実施状況

(1) 職員の資質と施設サービスの向上

ご利用者の高齢化が進み、求められる対応も変化してきました。これまでの自立支援だけではなく、介護技術や認知症などについて施設内外の研修に積極的に参加できる機会を設けました。また、各職員の面談を実施し、個々の課題整理と目標を明確にし、モチベーションと資質の向上を図りました。

ご利用者へは定期的に懇談会の場やアンケートなどにより、ご利用者の声を把握しながら、食事の提供方法の見直し、居室設備の定期点検・修繕、娯楽備品の設置など、ご利用者が安心して快適に過ごせるようサービスの改善に努めました。担当職員が中心となって関わることで、ご利用者をよく知ることを基本にした支援に努めました。日常生活相談だけでなく、介護認定など各種の書類の申請に関わる相談・代行などにも幅広く対応をしました。

支援や介護が必要になった場合でも、本人が望む生活を維持、継続できるようケアハウスでの生活支援や介護内容について見直したことにより、職員同士が理解を深め、実際の場面での支援について取組みを始めました。

(2) 稼働率の安定と利用継続のための施設内外のケアの構築

健康管理の推進および個別支援の推進に努めました。ご利用者の身体レベルの低下や入院は年々進んでいます。毎月身体測定の実施、かわな病院・坂井歯科医院と協力医療機関としての契約により、予防措置も含めて医療体制の強化を図りました。また、服薬ができない方のために、かかりつけ医や薬局との連携を図り、安全に確実に服薬できるように施設で服薬管理する体制にしてきました。また、緊急時の速やかな対応の為に、日常の状態を定期的に把握できるように、病状管理のためのシートを作成し、適時更新しながら職員間の情報共有と特養夜勤者との連携に努めました。

病状・身体状態の悪化や認知症の出現により、何らかのサービスが必要なご利用者が増えてきています。介護計画を立案し定期的にカンファレンスを開き個別のケースについて検討し、ケアハウスでの生活が継続できるよう支援しました。介護サービスの必要性に応じて、小規模多機能ホームみなみやまと連携しながら生活の安定に努めるなど、関係機関とも連携を図り積極的に医療や介護保険サービスの利用を進めてきました。また、管理栄養士による栄養・健康管理の維持・向上に努めました。

(3) 苦情への対応

ご利用者から寄せられた苦情については、速やかに対策を検討し改善に努めました。接遇、マナーについても職員会議等で意見交換を行っておりますが、職員全体で適切な対応ができるよう継続的に取り組んでいきます。

(4) 地域との交流の促進

保健所の保健師による健康に関する講座と相談会を実施しました。

(5) 生活環境・生活空間の改善

設備・備品の老朽化による故障が増えており、居室トイレの更新や漏水修理等を随時実施し、ご利用者の生活に支障がないよう速やかな対応に努めました。

(6) 定期的なご家族との交流

ご利用者の高齢化に伴い介護や認知症状への対応など、状態の変化についてご家族と連絡をとり合う場面も増えてきています。ご利用者の状態や状況の共有に継続的に取り組んでいきます。

(7) 食事の提供の充実

ご利用者懇談会やアンケート、また、個別の嗜好調査などの結果を給食会議や厨房会議などへ報告し、改善策を検討しています。ご利用者の声を反映しながらひとつひとつメニューを変更するようにしました。利用者懇談会の席に管理栄養士が出席し、食事に対するご利用者からの要望や質問に直接対応させて頂き、顔の見える関係づくりに努めました。

2. 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初 人数	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30

3. 主な行事

<会議等>

毎月定例：職員会議、カンファレンス、非常災害対策委員会、個人情報保護委員会、衛生委員会、

事故防止検討委員会、サービス向上・業務改善委員会、感染症・食中毒予防対策委員会、

食事委員会、研修委員会、実習委員会

<月間行事>

① 入居者懇談会・・・職員と共に生活改善や諸行事の意見交換の懇談会

② 月の定例活動・・・編み物クラブ、カラオケ会、ビデオ鑑賞会、喫茶会、パソコン教室、

切り絵

③ 真宗大谷派名古屋教区法話会・・・毎月1回実施

④ 施設間交流行事・・・児童とのレクリエーション行事、共同外出会、みなみやまとの交流

<年間行事>

4月	お花見会	10月	南山寮交流外出
5月	菖蒲湯	11月	1日旅行
6月	ふれあいまつり	12月	忘年会、ゆず湯、餅つき
7月	七夕会	1月	初詣、初釜
8月	総合防災訓練、盆踊り	2月	節分
9月	秋刀魚の日	3月	雛祭り会、総合防災訓練 梅見

3. まとめ

高齢で支援や介護が必要になってきたご利用者が増えると共に、入退院の場面等も増えてきました。ご利用者が望む生活が少しでも長く維持できるよう、昨年見直した方針と対応を意識し、職員会議やカンファレンスの場で職員の意識の統一を図りました。ご利用者ごとに個別に実践していけるよう、継続して取り組んでいきます。また、元気で暮らしている方や比較的年齢が若い方については、個人の意思を尊重しながら、社会性の維持や張り合いのある生活ができるよう、情報提供や必要な支援に努めていきます。

平成 28 年度 事業報告

小規模多機能ホーム みなみやま

1. 計画の実施状況

(1) 自立支援の視点に立ったケアプランの立案

他の関係機関とも情報を共有し、各専門分野の観点から個々にあったケアプランの立案を行い、自立支援に向けた支援に取り組みました。

(2) 安心して在宅生活を送る為の支援強化と医療連携

住み慣れた地域（自宅）での生活が継続出来るように、訪問体制の強化に伴う訪問サービスの見直しを継続して行いました。

地域の医療機関（医師）と連携が図れるように、各医療機関への送迎・受診の付き添いに努めました。また、認知症のタイプ別ケアとして、ご家族の同意のもと、認知症の専門医への受診・相談を行い、安心・安全に生活して頂けるように努めました。

(3) 介護に関わる知識・技術の向上と統一

内部・外部研修への参加を促しました。また、研修に参加出来なかった職員に対しても、研修に参加した職員がミニ学習会を開催し、介護に関わる知識・技術の共有と向上を図りました。

学んだ知識・技術の実践を行いながら対応の統一が図れるようにカンファレンスを行い、介護計画の立案を行いました。

(4) 利用者と家族・地域との交流・連携

ご利用者の普段の様子を見て頂けるように、家族会（交流会）を行いました。ご家族にご利用者の昔の写真を持って来て頂き、ご利用者・ご家族・職員との交流の場を持つ事が出来ました。また、前年度同様、認知症サポーター養成講座を行いながら、地域の方々に認知症に対する理解と対応方法を学んで頂きました。今後にご利用者・ご家族のニーズの把握に努め、交流・連携を行っていきます。

(5) 業務の確立

ご利用者の個々のニーズに対応出来るように一日の業務の見直しや業務分担を職員会議で確認・修正を適宜行いました。

(6) 災害時の対策構築

非常災害対策委員会の中で取り組んでいる BCP（事業継続計画）の中で、ご利用者が自宅で被災した場合の対応についての検討を行いました。今後は、BCP 完成後に検討し

た内容が活かせるように、ご利用者・ご家族・職員で知識・対応についての共有が出来る様に取り組みます。

2. サービス別利用実績（賃貸住宅を含む）

<小規模多機能ホーム>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
登録	23	22	21	21	20	20	19	20	21	23	21	21	21
通い	14.6	14.1	14.1	13.3	12.2	12.9	10.8	11.3	11.0	11.3	11.2	11.6	12.4
泊まり	7.7	7.7	7.5	7.4	6.8	7.3	6.0	5.9	5.8	6.3	6.2	6.9	6.8
訪問	16.5	15.3	15.1	14.1	14.6	13.8	14.0	16.1	15.5	13.8	13.5	10.7	14.4

※登録：25名

※定員＝通い：15名（一日）、泊まり：8名（一日）

※平成27年度平均介護度：2.6

<賃貸住宅>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
定員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

※定員：6名

※要介護状況＝自立（4名）、要支援2（1名）、要介護4（1名）

3. 主な事業

（月行事）

会議：経営会議、委員会連絡会議、サービス担当者会議、運営推進会議、小規模職員会議

委員会：非常災害対策委員会、個人情報保護委員会、衛生委員会、事故防止検討委員会、サービス向上・業務改善委員会、感染症・食中毒予防対策委員会、身体拘束解消委員会、褥瘡予防対策委員会、研修委員会、食事委員会、実習委員会

行事：誕生日会、喫茶外出、外食外出、手作り昼食、手作りおやつ、理美容、体重測定、個別レク、世代間交流、他施設交流

（年間行事）

- 4 月 花見（桜）、
- 5 月 菖蒲湯、母の日
- 6 月 家族会、父の日
- 7 月 七夕会、土用の丑

- 8 月 夏まつり
- 9 月 お月見、敬老会
- 10月 ハロウィン、秋刀魚の日
- 11月 紅葉狩り
- 12月 ゆず湯、クリスマス会（年忘れ会）、餅つき
- 1 月 初釜、初詣、書初め、新年会
- 2 月 節分（豆まき）、バレンタインデー
- 3 月 ひな祭り、花見（梅）、ホワイトデー

4. まとめ

ご利用者・ご家族の状態や状況に合わせて、訪問・通い・泊りのサービスを組み合わせながら、出来るだけ長く住み慣れた地域（自宅）で安心・安全に生活が出来るように、ご利用者・ご家族のニーズを把握しながら適宜のサービス見直しに努めました。また、医療との連携を図りながら重度化に伴う、在宅生活の不安な部分に対してのケアも、ご利用者・ご家族と情報共有を行いながら実施して行きます。今後も、ご利用者・ご家族が住み慣れた地域で生活が継続できるように、地域の方々にご協力頂けるような活動に取り組んでいきます。

平成 28 年度 事業報告

認知症グループホーム みなみやま

1. 計画の実施状況

(1) 「権利的擁護」の認識とサービス向上

定期的にモニタリングを行い、ご利用者・ご家族と支援内容の確認・意向を踏まえながら、外部での生活支援に積極的に取り組みました。

(2) 個々にあったケアプランの立案

ご利用者・ご家族から生活歴や嗜好の聞き取りを行いながら、個々のご利用者にあったケアプランの立案を行いました。

(3) 介護に関わる知識・技術の向上と統一

職員の内部・外部研修への参加を促しました。また、研修に参加出来なかった職員に対しても、研修に参加した職員がミニ学習会を開催し、介護に関わる知識・技術の共有と向上を図りました。

学んだ知識・技術の実践を行いながら対応の統一が図れるようにカンファレンスを行い、介護計画の立案を行いました。

(4) ご利用者のご家族・地域との交流・連携

ご利用者の普段の様子を見て頂けるように、家族会（交流会）を行いました。担当職員の自己紹介と施設行事写真を見て頂きながら、ご利用者・ご家族・職員とで交流する場を持つ事が出来ました。また、前年度同様、認知症サポーター養成講座を行いながら、地域の方々に認知症に対する理解と対応方法を学んで頂きました。今後ご利用者・ご家族のニーズの把握に努め、交流・連携を行っていきます。

(5) 業務の確立

ご利用者の個々のニーズや重度化に対応出来るように、一日の業務の見直しや業務分担を行い、重度のご利用者に対しての個別対応を実施しました。

(6) 重度化に伴う医療との連携

ご利用者の重度化受け入れ体制を整える為に、痰吸引研修に順次受講に努めました。今後も継続的に受講出来るように努めます。また、嚥下困難者（低下者）に対しても協力医療機関と連携し、摂食嚥下評価を行いながら生活の質（食事形態）の確保と誤嚥性肺炎予防に努めました。

生活の場として、みなみやまで最期まで過ごす事が出来る様に、各医療機関と連携を図りながら、初めての看取りを行いました。

2. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
定員 (18名)	17.2	17.8	18.0	17.5	17.9	18.0	18.0	17.9	17.6	18.0	18.0	18.0	17.8 (99.0%)

※上記、1日あたりの利用人数

※平成28年度平均要介護度=2.8

3. 主な事業

(月行事)

会 議：経営会議、委員会連絡会議、サービス担当者会議、運営推進会議、
グループホーム職員会議

委員会：非常災害対策委員会、個人情報保護委員会、衛生委員会、事故防止検討委員会、サービス向上・業務改善委員会、感染症・食中毒予防対策委員会、身体拘束解消委員会、褥瘡予防対策委員会、研修委員会、食事委員会、実習委員会

行 事：誕生日会、喫茶外出、外食外出、手作り昼食、手作りおやつ、理美容
体重測定、個別レク、世代間交流、他施設交流

(年間行事)

- | | | | |
|-----|-----------------------|-----|----------|
| 4 月 | 花見 (桜) | 5 月 | 菖蒲湯、母の日 |
| 6 月 | 家族会、父の日 | 7 月 | 七夕会、土用の丑 |
| 8 月 | 夏まつり | 9 月 | お月見、敬老会 |
| 10月 | 秋刀魚の日、運動会 | 11月 | 紅葉狩り |
| 12月 | ゆず湯、クリスマス会 (年忘れ会)、餅つき | | |
| 1 月 | 初釜、初詣、新年会 | | |
| 2 月 | 節分 (豆まき)、バレンタインデー | | |
| 3 月 | ひな祭り、花見 (梅)、ホワイトデー | | |

4. まとめ

今後も、ご利用者・ご家族・職員との関係作りに努め、問題の把握とその方にあった支援の提供を行います。また、今年度の施設内研修で学んだ、ターミナル研修の知識・技術を活かしながら、協力医療機関との連携を強化し、住み慣れた場所での最期、を大きな課題にしていきます。